

曲 目 解 説 (Bプログラム)

平成24年8月26日(日) アムステルダム ミュージックヘボウ

< 管 絃 >

管絃は、^{とうがく}唐樂の器樂合奏です。古くは^{こまがく}高麗樂でも行われたようですが、何時の頃に行われなくなりました。唐樂には、^{いちこつちよう}崑越調、^{ひようしよう}平調、^{そうじよう}双調、^{おうしきちよう}黄鐘調、^{ばんしきちよう}盤渉調、^{たいしきちよう}太食調の六つの調子があります。今回は平調の曲を演奏します。

・ 平調音取

平調は^{とうがくりくちようし}唐樂六調子の一つで、平調(洋樂のE音に近い音)を基音とした^{りっせん}律旋の調子です。音取は演奏に先立って奏する短い曲で、音律を整えその調子の雰囲気を作ります。^{しやう}笙・^{ひちりき}篳篥・^{ふえ}笛の音頭と^{あんどう}鞀鼓そして^{がっこ}主琵琶・^{おもびわ}主箏が奏します。

・ 越 殿 樂

この曲は、漢の文帝(在位前180年~前157年)が作ったとする説と日本で作られた曲であるとする説とがあり、はっきりしたことはわかりません。

同名で、^{ひようじよう}平調、^{おうしきちよう}黄鐘調及び^{ばんしきちよう}盤渉調の三つがありますが、なかでも平調の越殿樂は民謡の黒田節の原曲とも云われ、その簡潔、優雅な旋律と端正な形式で知られています。

・ 朗詠 嘉辰

「朗詠」は、優れた和漢の詩に曲節を旋して朗吟するもので、平安中期に盛んに行われました。

この「嘉辰」は、宮中では、^{とうが}踏歌(歌の上手な男女を集めて年始の祝詞を歌い舞わせた新年の行事)の際に歌われたものです。

朗詠では、漢詩を訓読して歌われますが、この詩だけは、音読で歌います。また、この詩は、繰り返し三回歌いますが、二回目の他は、詩の途中から歌い、ともに同じ音程で歌うのも、この曲独特のものです。今回は、二の句のみです。

なお、朗詠は、通常、管絃の中で奏されますが、固定された^{きゆうおん}宮音(基音)がないため、その時の管絃の調子によって歌われます。今回は、宮音を平調として演奏します。

詩

^{か しんれいげつかん む きよく} 嘉辰令月歡無極 ^{ばんざいせんしゅうらく びよう} 万歳千秋樂未央

「このめでたいよい日にあたり、私たちの歡びは果てしが無い。万歳千秋を祝って、私たちの楽しみは尽きない。」

・雞 徳

この曲の由来については、^{にわとり}雞が有するという五徳（文，武，勇，仁，信）を雅楽の音階である五音（宮，商，角，微，羽）に当てはめて作った曲であるという説と、いつの時代か漢の南方にあった鷄頭国に戦勝した時にこれを祝って作ったという説がありますが、詳しいことはわかりません。

古くは、正月7日の^{あおうま}白馬の^{せちえ}節会（平安時代の宮中行事で、左右の馬寮からから白馬を庭上に引出して天覧の後、群臣に宴を賜った儀式）に奏されました。「雞」は「慶」に通じるとしておめでたい曲とされています。

< 舞 楽 >

大陸系の「舞楽」は左方の舞（中国系）と右方の舞（朝鮮系）に大別されます。

今回は左方の^{しゅんていか}「春庭花」と右方の^{なそり}「納曾利」と^{ばいる}「陪臚」を演奏します。

・^{しゅんていか}春庭花

唐の^{げんそうこうてい}玄宗皇帝（在位 712 年～756 年）が春に花の咲くのが遅いことを憂い、桜上で一曲奏すると庭に百花が咲き乱れたので、この曲を「春庭花」と云うようになったとの伝えがあります。

桓武天皇（在位 781 年～806 年）の御代に遣唐舞生の^{くれのまくら}久礼真蔵が伝えたとも、また、一説には^{わにべのおあたまろ}和邇部太田麿が作ったとも云われています。

この曲は^{いちじょう}一帖と^{にじょう}二帖に分かれ、一帖で舞う時は^{しゅんていらく}「春庭楽」と呼び、二帖とも舞う時は「春庭花」と呼ばれています。

左方の四人舞で、舞人は^{ばんえしやうぞく}蛮絵装束の右肩を^ぬ袒ぎ、^{けんえい}卷纒の冠に^{かざし}挿頭花を付け、^は太刀を佩き舞います。

後半、舞いながら舞台を回る姿は、あたかも花が開いたり閉じたりする様を思わせて誠に優雅な舞です。

・^{なそり}納曾利

高麗から伝わった舞曲ですが、由来などは不明です。「^{そうりゆうまい}双竜舞」といわれ、雌雄の竜が楽しげに遊ぶ姿をかたどったものといわれ、昔は相撲など勝負事のおりに、勝者

を讃えて奏したといわれています。

右方の二人舞で、舞人は裯襦装束りょうとうを着け、面を被り、右手に桴ばちを持って、破および急を舞います。

・陪臚ばい ろ

一名を「陪臚破陣楽はいしんらく」といいます。天竺てんじくの楽で、班朗徳はんろうとくが作ったと云われています。大国の法に「陣の日にこの曲を七返の時に舍毛音しゃもうのこえがあれば我が陣が勝つという。」とあります。楽は婆羅門僧正ばらもんそうじょう、林邑りんゆう（ベトナム辺り）の僧仏哲そうぶつてつが我が国に伝え、舞は聖徳太子が守屋の軍と対した時に、舍毛音しゃもうのこえがあつて勝つたのを模して作ったと伝えられています。また、奈良の唐招提寺の陪臚会へろえに奏したと云われています。

破は平調の夜多良拍子やたらびょうし（2分の2と2分の3の混合拍子）で、曲の中程で太刀を抜いて舞います。急は吉越調の新羅陵王急しんらりょうおうのきゅうを奏し、曲の途中で鉾と楯を持って舞いながら退出します。

右方の四人舞で、裯襦装束りょうとうに末額まっこうの冠かんむりを被り、太刀を佩き、鉾と楯を持って舞います。

管 絃 配 役

平調音取，越殿楽，朗詠 嘉辰，雞徳

笙	大窪貞夫	小原完基	豊 靖秋
篳 篥	東儀季祥	山田文彦	久恒壮太郎
笛	大窪康夫	植原宏樹	小山貴紀
琵琶	松井北斗	豊 剛秋	
箏	若井 聡	平川幸宗	
鞆 鼓	池邊五郎		
太 鼓	上 研司		
鉦 鼓	保志瑞士		

舞 樂 配 役

春庭花，納曾利，陪臚

舞 人

左方

春庭花

大窪永夫

岩波孝昌

増山誠一

四條丞慈

右方

納曾利

陪 臚

池邊光彦

大窪貞夫

多 忠輝

若井 聡

久恒壯太郎

保志瑞士

管 方

笙

豊 英秋

松井北斗

豊 剛秋

小原完基

箏 篳

池邊五郎

東儀季祥

山田文彦

平川幸宗

笛

上 研司

大窪康夫

植原宏樹

小山貴紀

鞆鼓・三ノ鼓

安齋省吾

太 鼓

東儀博昭

鉦 鼓

豊 靖秋